

特集
子どもたちの質問に
答えます



鳥取市歴史博物館「やまびこ館」

Q. まなびのひろばにある「土器パズル」や「双六」は自由に遊んでもいいですか？

A. どなたでも自由に遊ぶことが出来ます。これ以外にも、引き出しの中にはカルタやトランプなど、自由に遊べるおもちゃがあります。また、映像アーカイブややまびこ写真帳（古写真データベース）、鳥取の歴史を学べる本など、色々と楽しんで勉強できるコーナーです。

（利用前にアルコール消毒をお願いします）



まなびのひろば

鳥取市因幡万葉歴史館

Q. 梶山古墳の壁画に描かれた魚は何ですか？

A. 梶山古墳の壁画についてはいくつか説がありますが、ひとつは鮭説です。近くに魚の線刻壁画をもつ鷺山古墳がありますが、そちらの絵は鮭とされていて、梶山古墳も同じ鮭ではないかというものです。

もうひとつは鯉説です。中国から「鯉が滝を登って龍になる」という伝承が日本にも伝わっていたのではないかと、いうものです。



石室の奥の彩色壁画

仁風閣・宝扇庵

Q. 仁風閣には見たことのない変わった電灯がたくさんありますが、なぜこんな電気がついているのですか？



A. 今から114年前、鳥取県で一番はじめに電気がついた場所がこの仁風閣です。当時のエジソン電球と同じものがついています。

鳥取市青谷上寺地遺跡展示館

Q. どうして弥生人の脳が残っていたのですか？

A. 青谷上寺地遺跡では3人の頭がい骨から脳が見つかりました。国内では最古のもので、世界的に見ても数例しかない貴重な発見です。

脳が残っていた理由のひとつとして、水分を多く含んだ土に遺物が埋まっていたことが挙げられます。木や骨を腐らせる微生物が増えにくい状況にあったため、脳も腐らずに残っていたのでしょう。この他にもたくさんの奇跡が重なって、弥生人の脳が残ったのです。



脳が残っていた人骨

鳥取市あおや郷土館

Q. 山陰海岸ジオパークのジオサイトである子守神社ってどんな神社なの？

A. 青谷町八葉寺にある子守神社は、断崖になった板状安山岩の溶岩の裾に建てられています。長さ約100m、高さ約30mの岩壁は、下の柔らかい溶岩が浸食や風化によって削れ、深さ約7mの岩窟になっています。

子守神社の岩壁・岩窟、境内の大イチョウは鳥取市天然記念物になっています。伝説には「左目のない龍」の話もあるよ。



子守神社本殿と岩壁



秋の子守神社と大イチョウ

鳥取市あおや和紙工房

Q. 工房前に咲いているハイビスカスのような花をつける植物は何ですか？

A. 「トロロアオイ」というアオイ科の植物です。観賞用、手漉き和紙づくりに欠かせないネリ（繊維をからめるためのつなぎの粘剤）用に植えています。花は7～9月頃に咲き、朝開花し、夕方にしぼむ一日花です。

秋に収穫し育った根の部分を叩くと粘りが出て、その粘りを粘剤とするので根を太らせるために和紙づくり用は芽かき作業が必要で花は摘んでしまいます。

目に触れる機会が少ない花なので見ていただきたいですね。



城下町とつとり交流館 高砂屋

Q. お庭と裏にある建物は何かですか？

A. 蔵です。4棟あります。3棟の蔵は展示室として利用しています。

交流館の前（十数年前）は、綿商品（布団、枕、反物など）を販売するお店でした。その当時は蔵に生活用品や販売商品などいろいろな物を入れていたようです。



家財蔵